


令和4年度 清須市観光・産業きよす会議 要点録

日時	令和5年2月9日(木) 14時～15時30分	会場	清須市役所北館 2階 第1・第2会議室	
出席者	千頭 聡 委員【座長】、鈴木 健司 委員【副座長】、後藤 鈴明 委員、山田 宗宏 委員、渡辺 修 委員、白井 りつ子 委員			
欠席者	大橋 正幸 委員			
議題	(1) 3年間の事業総括（成果と課題） (2) 今後、重点的に取り組む項目に係る意見聴取	傍聴者	0人	

【発言テーマ（1巡目）】3年間の事業総括（成果と課題）

後藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 今年は大河ドラマでも注目されつつある中で、清洲城の入場者数が少ないという課題があるようなので、清洲城の中に入ってから遊べるコンテンツがあるとよい。 1年前に公開を開始したショートムービーの効果はどうか？いまいち存在感がない印象。 ⇒【事務局】約5分程度のムービーを全5話で構成しており、YouTube（観光協会 web サイト）で公開中。再生回数は、最も見られている回でも数百回だが、ふるさとのやかたのデジタルサイネージで毎時セットされた時間に放送し、観光拠点での周遊PRに活用。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 清須からあげまぶしは、なるべく全店舗に食べに行こうと思ひ、各店舗を回った。有名カレーチェーン店の参画はインパクトが大きく歓迎したい。また、個人店舗もそれぞれ工夫を凝らしており、チェーン店よりも数百円高い価格設定のようだが、その分のクオリティを感じる仕上がりだと評価できる。 内部から見た地域の良さと、外部から見た地域の良さとでは、違いがあるものなので、何が観光の武器になるかについて、継続的に調査すると良い。 清須観光で、まず清洲城に来てもらうのは良いとして、何で観光消費をしてもらうかの落とし所がポイントになる。現在はその点が不明瞭ではないか。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> 犬山城をはじめ、観光地ではワンコインでの食べ歩きはよく見かける光景。清洲城入場者数は、清須観光への流入のパイが増えれば自然体が増えていくのではないか。 令和4年の尾張西枇杷島まつりと同日に熱田まつりが開催された。熱田駅長と話をしたが、花火や屋台などがコロナ前同様に出ていたことで、来場者の規模が想定外に多かったことからイベント需要の高まりを感じるので、令和5年度に従来のまつりが開催されるのであれば、入場者数の増加も期待できるのではないか。
白井委員	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の観光部会から参加しているが、多くの意見が出ていた中で、歴史を背景にしつつ、“映える”“バズる”といったアイデアでコンテンツ化できたことは素晴らしい。 継続的な情報発信が必要。ティックトックなど新たなSNSも取り入れてはどうか。 清洲城の展示内容はかなり面白いが、それが知られていないのかもしれない。一般的な城郭展示は、歴史ファン以外には退屈な内容も多く、そうしたものに近いイメージを持たれているのであれば、展示内容をPRするだけでも、入場者数の増加につながるのではないか。
鈴木委員 (副座長)	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の業務開始以来、産業部会では、和気藹々としつつも、参加者の清須愛から来るキツイ指摘などにふれる場面もあり、とても面白かった。たくさん意見が出た中で、子育て層を取り込むにはグルメだということで、産業部会から出た意見が、事業者有志の方々に引き継がれ、その意見収斂によって、清須からあげまぶしとして結実した経緯がある。 企業さんも企業間の接触がないという話もあって、その後のイベント設計へと話がつながっていくが、元々バラバラでやっていたイベント（清洲城マルシェや商工会青年部によるイルミ）を集約して相乗効果を生み出したことは、今回の事業がなければ実現できなかったのではないか。 合併市なので一体感がまだないという意見もあり、「きよすフェス」などの新規イベントも、まず市民を主な客層として開催してきた経緯があったので、清洲城入場者数の底上げという観点からは、イベント客層とのミスマッチがあったのかもしれない。 今は世代によって情報源が異なる時代。授業で学生に聞いたが、通学中に駅舎ホームのポスターを意外とよく見ているそうだ。下りない駅の広告も見ているそうなので、通過電車からでも見られるよう、期間限定で長く距離を使った広告を出すのも面白いかもしれない。
千頭委員 (座長)	<ul style="list-style-type: none"> 私は観光部会を担当したが、こちらでも毎回活発に意見が出ていた。傾向として、シニア層と若年層に二分されるところもあったが、観光ルート作成などでは、その双方の意見が反映できたのではないか。 観光情報発信の中で、ショートムービーをYouTubeで公開している件だが、（動画を掲載するだけでは再生回数は伸びないので）このYouTubeに誘導するためのSNS発信があるとよい。 事務局からの説明では、コンテンツの認知度が市民中心にしか向上していない点を課題と捉えているとのことだったが、手順としてまずは市民に気に入ってもらえるものでないと定着しないのは確かなので、初動としては間違っていないと前向きに評価してよい。

【発言テーマ（2巡目）】今後、重点的に取り組む項目に係る意見聴取

後藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ きよすイルミは、かなり反響があつて、概ね好評。ただし、プロジェクションマッピングが少し不鮮明な部分もあるなど、来年度に向けた改善点もある。 ・ 来年度はイルミに合わせてアート・デザイン系学校との連携を行うとのことだが、若い感性を活かして、良い結果が出ることを期待したい。演出面では、竹細工の演出など、腹案あり。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名鉄名古屋駅で、清洲城入場券を無料で配布し、まずは清須へ来てもらう仕掛けとしてはどうか。その上で、落とし所となる経済効果を生み出すコンテンツへの誘導が必要。 ・ 15分間隔のプロジェクションマッピングは設計としてよかった。ただし、あれだけのイルミネーションを無料で鑑賞させてあげたにも関わらず、お金を使わずに帰してあげた点は、今年のイルミの反省点ではないか。来年は経済効果を意識した改善が必要。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初はターゲットを狭く絞ってから、徐々に広げていける事例がある。名鉄では、鉄道マニア向けに無人駅の硬券切符を期間限定で売り出したところ、大変好評だったので、販売期間を延長した。特別感のある体験は、ロコミで広げてもらえる場合がある。 ・ 新清洲駅から清洲城までの動線上に何か目を引くコンテンツがあるとよい。
白井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ PR面でいえば、学生とのコラボネタは、メディア受けがよいので、ぜひ進めてほしい。 ・ アート・デザイン系学校との連携事業に2箇年予算計上される予定とのことだが、旧作品の取り扱いが気になる。学生が心を込めて制作した作品が、常設的でなくてもどこかで継続的に展示できると喜ばれるのではないか。
石田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート方法で一部課題はあるものの、そもそもアンケートには現れない“良い反響”を肌感覚で実感している。 ・ 鉄道駅のポスター掲出は、極めて有効だというのが持論であり、実際にコロナ前のイベントで高い効果を得た事例も経験している。 ・ 市民や利用者のロコミによる二次拡散は、とても大切。コロナ前に清洲城で実施している「ひな飾り」の会場で、ボランティアの方々が子供用の着物を無料で着せてあげていたところ、保護者のネットワークで評判を得て、大変な客入りがあった。お母さん同士のコミュニティで共有される情報伝播力は、とても強いと実感した。
鈴木委員 (副座長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しあざとい視点だが、近隣市町の保育園などに竹細工などで作品をつくってもらいと、親子で展示を見に来るといった流れを作れる。市民だと清洲城の中まで誘導するハードルとなるので、あえて近隣市町の住民をターゲットとするのも一案。 ・ プロモーション予算が限られているように見受けられるので、分散させずに一点集中的に予算投下することを推奨する。
千頭委員 (座長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去3年間の取り組みで劇的な変革が生じたというより、清須の観光・産業振興を盛り上げていくためのスタートラインに立ったのだという認識に立てば、これからは本番。その意味で継続事業の推進は必要性が認められる。 ・ 北海道では、周遊プランがたくさんあり、JR北海道による記念切符の販売イベントなどがあって、実質的に車移動でなければ周遊できないプランもある。何を呼び水に周遊してもらうかは、各地域の知恵の絞りどころ。 ・ 市民の方に向けたPRは継続されたい。市民がPR役となることで、二次拡散、案内役をつとめてもらえる。コンテンツの定着には、まず市民に認められることが不可欠。 ・ 名古屋市地下鉄の車内広告では、まるごと一両編成で広告を3日間うっても、コストは数十万円と現実的なプランもある。検討の余地はあるかもしれない。 ・ 会議体はこれで終了だが、今後も当事者として関わられる方もいらっしゃるのでは、ぜひがんばってほしい。